

文教福祉 常任委員会

先進地(横浜市・川崎市)の放課後児童対策を調査 小学校や地域等を含めた根本的な解決を



委員長 島田 榮一 委員 月田 均
副委員長 三友美恵子 柳 沢 浩一
宇津木 治宣
所管事務調査日：平成28年7月13日～14日



各種事業の説明を受ける



現場の様子を視察(横浜市)



元気に活動する子どもたち(川崎市)

●玉村町の現状
当町の放課後児童クラブの現状は、児童館を中心に放課後の児童の居場所として施設を提供してきたが、中央児童館管内の応募が近年多く、年度当初は待機児童が15名となった。今後、文化センター周辺の宅地開発が進むと、この傾向はさらに強まる事が予想されるため、何らかの待機児童対応が必要である。

●横浜市・川崎市の取り組み
横浜市は「放課後キッズクラブ」「はまっ子ふれあいスクール」「放課後児童クラブ」の3つおりの運営主体があり、それぞれ特色ある取り組みをしている。川崎市は市立小学校単位の「わくわくプラザ事業」が組織され、各小学校の一面にプラザ室が設置されている。希望者は全員受け入れ、原則無料で実施している。

まとめ

当町の子育て支援については、20数年前のバブル期の人口急増を踏まえて、共働き夫婦の子育て支援として各小学校区に児童館ができ、ここを中心に幼児の子育て支援を行う全国に先駆けた画期的なもので、子育てするなら玉村町という誇るべきものであった。しかし、最近、地域によって子どもの数に差が生じ、加えて放課後児童クラブの対象が3年生までから6年生までに引き上げられ、運営が大変難しくなってきた。これらの解決には児童館はもとより小学校、地域等を含めた根本的な解決策が求められる。

経済建設 常任委員会

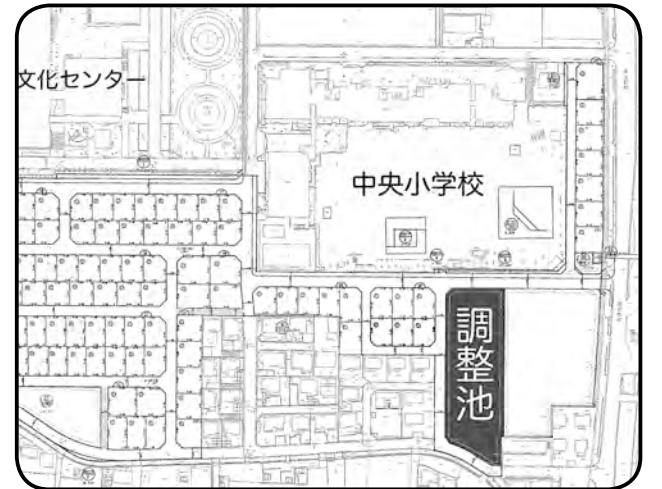
文化センター周辺土地区画整理事業(調整池)を調査 周辺地域も安心して暮らせる雨水対策を



委員長 石内 國雄 委員 渡辺 俊彦
副委員長 町田 宗宏 浅見 武志
筑井 あけみ
所管事務調査日：平成28年9月9日



このメンバーで調整池を視察



調整池建設予定地



万全な雨水対策を

●調整池の役割
文化センター周辺土地区画整理事業では田畑を宅地に開発することにより、開発地域や周辺地域の雨水流出環境が変化し、浸水被害等の危険性が高まるため調整池が必要となる。調整池は開発地区内の雨水・排水の受け口となるため、完成しないと道路整備や住宅建築は進めることができず、土地区画整理事業を行う上で非常に重要なものである。

●町の雨水対策と調整池
調整池は東西26・5メートル、南北77・5メートル、深さは3・4メートルで貯水量は5775立方メートルである。防災上の観点から30年に一度起こり得る雨量が貯水可能な設計であり、造成地の東部に建設される。大雨が降った場合は、一旦調整池に貯水し、段階的にポンプが稼働して定量を流下させるため、鯉沢へ過大な負担がかからないよう調整されている。また今後は、鯉沢の流下能力を向上させるための改修事業も実施していく予定である。

まとめ

文化センター周辺土地区画整理事業は、町の人口減少対策の一環として行われる大型事業であり、その中でも調整池は周辺の雨水対策を行う上で、非常に重要な役割を担う。開発周辺地域からは雨水対策の面での心配の声も上がっているため、周辺住民への十分な周知が必要であると感じた。開発事業は天候に左右されることも多いが、安全を担保しながらも計画に遅れがないよう進めるとともに、周辺環境にも配慮し、しっかりと設計・工事のもと十分な雨水対策を実施するよう期待する。